

大会名 Competition	第62回秋田県高等学校総合体育大会 バスケットボール競技
NO. M-2	Year Month Day Time 2016 年 6 月 7 日 14 : 00
場所 Place	横手市増田体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チームA 平成 100 ○	14 1st 20 24 2nd 23 21 3rd 8 41 4th 17 OT	チームB 能代工 68 ●
------------------------	---	------------------------

主審:Referee 久米 克弥 0
副審:1stUmpire 佐藤 匠 0
副審:2ndUmpire 小川 裕之 0
テーブルオフィシャル:Table officials
横手高校男子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	三浦 杏太	三浦 杏太	12	2	3	0	4	4	×	山田 柊人	山田 柊人	10	1	2	3	5
5	×	藤原 貴史	藤原 貴史	26	1	10	3	0	5	×	児玉 海渡	児玉 海渡	8	0	3	2	3
6	×	大日向 裕也	大日向 裕也	27	0	12	3	2	6	/	長濱 宏治郎	長濱 宏治郎	7	1	2	0	4
7	×	岸 重人	岸 重人	8	0	3	2	3	7	/	熊谷 弥高	熊谷 弥高	11	3	1	0	2
8	/	内藤 達也	内藤 達也	13	0	5	3	0	8	×	山田 魁都	山田 魁都	13	1	4	2	3
9		石井 淳大	石井 淳大	-	-	-	-	-	9		石田 淳	石田 淳	-	-	-	-	-
10		鎌野目 颯斗	鎌野目 颯斗	-	-	-	-	-	10		阿久津 穰	阿久津 穰	-	-	-	-	-
11	×	遠藤 里玖	遠藤 里玖	14	1	4	3	4	11	/	児玉 凜斗	児玉 凜斗	2	0	1	0	0
12		栗田 瞭	栗田 瞭	-	-	-	-	-	12	×	佐藤 侃	佐藤 侃	2	0	1	0	0
13		樋渡 竜雅	樋渡 竜雅	-	-	-	-	-	13	/	齋藤 創	齋藤 創	0	0	0	0	1
14		宮崎 恭輔	宮崎 恭輔	-	-	-	-	-	14		牧野 湧	牧野 湧	-	-	-	-	-
15		高橋 凜	高橋 凜	-	-	-	-	-	15	×	新田 由直	新田 由直	15	1	5	2	3
16		宮川 郷	宮川 郷	-	-	-	-	-	16		小納 駿介	小納 駿介	-	-	-	-	-
17		高橋 颯	高橋 颯	-	-	-	-	-	17		守屋 壮次郎	守屋 壮次郎	-	-	-	-	-
18		佐々木 健太郎	佐々木 健太郎	-	-	-	-	-	18		大日向 祐輝	大日向 祐輝	-	-	-	-	-
19		加藤 大貴	加藤 大貴	-	-	-	-	-	19		関 真寿	関 真寿	-	-	-	-	-
20		後藤 光葵	後藤 光葵	-	-	-	-	-	20		杉澤 央起	杉澤 央起	-	-	-	-	-
21		土谷 春希	土谷 春希	-	-	-	-	-	21		遠田 貴大	遠田 貴大	-	-	-	-	-
コーチ		佐々木 信吾	佐々木 信吾						コーチ		柴田 直宏	柴田 直宏					
Aコーチ		石井 秀樹	石井 秀樹						Aコーチ		杉 沢 政	杉 沢 政					
合計				100	4	37	14	13	合計				68	7	19	9	21

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* インドシュート 2P:2P* インドシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は、48連覇を狙う能代工と、初優勝を目指す平成の対戦となった。能代工は2-3ゾーン、平成はマンツーマンディフェンスで始まる。能代工はアウトサイドからの攻撃を展開し、#4山田や#11児玉のシュートで点数を重ねる。一方の平成はアウトサイドやドライブを織り交ぜた攻撃に加え、オフェンスリバウンドを粘り強く拾い、能代工に主導権を渡さない。残り2分を切ったところで能代工がオールコートプレスからリズムをつかみ、14-20と能代工のリードで第一ピリオドを終える。

第二ピリオド、平成はリバウンドやルーズボールによく反応し、#5藤原がゴール下で得点を重ねる。能代工も#15新田がオフェンスリバウンドによくからみ、#7熊谷の3Pシュートも決まりだす。残り5分で能代工ペースになりかけたところで平成はタイムアウト。タイムアウト明けに平成はディフェンスのプレッシャーが強まり、スティールから5連続得点を決める。能代工は3Pシュートで対抗するもなかなか決まらず得点が伸びない。38-43と能代工が5点リードで前半終了。

第三ピリオド、能代工は#4山田や#15新田の合わせのプレーで得点するが、平成の激しいディフェンスからターンオーバーを連発する。平成は#5藤原がオフェンスリバウンドを得点につなげ、さらに速攻から5連続得点を決めるなどして逆転に成功する。能代工はタイムアウトで立て直しを図り、#15新田がリバウンドを粘るが得点に結びつかない。その後も平成の激しいディフェンスに能代工の得点が止まり、59-51と平成のリードで第三ピリオドを終えた。

最終ピリオド開始1分、平成はオールコートのディフェンスから#5藤原が速攻を決めて62-51とリードを広げたところで能代工は後半2回目のタイムアウト。能代工は3Pシュートがなかなか決まらず、残り7分となったところで#4山田が痛恨の5ファウル。能代工は残り6分に#6熊谷がこのピリオド初得点をあげるが、平成は激しいディフェンスから立て続けに速攻を決めて能代工を突き放す。最後は#4三浦が速攻を決め、100-68としたところでタイムアップ。終始激しいディフェンスと、リバウンド・ルーズボールから速い展開に持ち込んだ平成が悲願の初優勝をとげた。

